

- 1 アツギフリーWi-Fi開始
- 2 Atsugi Free Wi-Fi開始
- 3 子育てでパスポートAYUCO
- 4-5 特集 旬の味覚を召し上げれ
厚木の果物をまるごと紹介
- 6-8 街の話題/コラム/お知らせ

Atsugi

Public Relations Atsugi City



街頭インタビュー

子育て支援センター



子どもの遊び場や子育ての相談窓口

子育てリフレッシュ講座



託児室「わたぐも」に子どもを預け、気分転換ができる講座を実施



厚木で子育て 魅力は何?

医療費助成



中学生までの医療費を全額助成

病児保育



病气やけがの子どもを仕事などで看病できない時に、預かるサービス

おむつ助成



第2子以降のおむつやおしりふきを助成



子育て情報まとめサイト

おおきくなあれ

インターネットで悩みを解決

厚木の子育て情報を集めました。お得な情報はここでチェック!



ガイドブックも配布中

《配布場所》こども育成課、子育て支援センター、公民館など。



スマートフォンやパソコンで閲覧可能

「赤ちゃんに触れるのが初めて」「身近に情報交換できる人がいない」。初めての子育ては分からないことばかり。不安や悩みは尽きません。

市では、保護者が安心して子育てができるよう保育環境の充実や気軽に相談できる体制づくり、経済的負担の軽減など子育て世帯に寄り添った支援を展開しています。昨年、日経DUALと日本経済新聞社が実施した子育てに関する調査では、「子育てしながら働きやすい都市」として県内1位、全国6位(東京都除く)の評価を獲得しました。

今回は、実際に市の子育て支援を利用する皆さんに「厚木で子育てする魅力」をインタビュー。「子育て支援センターが便利」「医療費の助成が助かる」といった声がある一方で、「知らない支援も多い」「サービスの使い方が分からない」といった悩みを持つ方もいました。

こうした悩みを少しでも取り除くために、市では子育てに関するサービスや届け出の方法などをホームページ「おおきくなあれ」にまとめています(左欄参照)。市の支援を活用し、子育てを楽しみましょう。

こども育成課 ☎225-2262

Zoom Up

駅周辺に無料Wi-Fiを整備

市街地のネット環境を充実

インターネット(ネット)に無料で接続できる、公衆無線LANサービス「Atsugi Free Wi-Fi」を本厚木駅周辺で開始しました。Eメールアドレスなどを登録するだけで、誰でも利用できます。市では、今後もネット環境を充実させ、まちの魅力を高めていきます。

必要な情報が手軽に素早く手に入り、他者との交流もできるネットは、私たちの生活に欠かせないものです。スマートフォンやタブレットなどの普及率は年々高まり、快適にネットを利用できる環境の整備が全国的に進んでいます。市では、8月から本厚木駅北口や厚木バスセンター、市役所など7カ所(左図参照)で、サービスを始めました。

一度の登録で何度も使える

サービスは、初めて使う時にEメール

ルアドレスや、ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス(SNS)のアカウントを登録するだけで、誰でも無料で使うことができます(右下欄参照)。エリアサインの周辺で、24時間、何回でも利用が可能です。市の施設を利用する室田陽子さん(48・戸室)は「駅や公共施設は、待ち合わせなどでもよく使う場所。無料でネットを快適に使える環境はとても魅力的」と話します。



回線が混雑するイベントや災害時でも円滑に利用できる



観光地でもネットが快適に
便利で快適なネット環境の導入は、市内の観光地でも進んでいます。市は2016年12月に、伊勢原市、秦野市と共同で、「OYAMA Wi-Fi」を整備。ハイキングコース付近の温泉旅館や観光案内所などに設置し、利便性を高めました。観光客がネットを快適に利用し、SNSなどに観光地の情報

観光地でもネットが快適に

市内の観光地でも進んでいます。市は2016年12月に、伊勢原市、秦野市と共同で、「OYAMA Wi-Fi」を整備。ハイキングコース付近の温泉旅館や観光案内所などに設置し、利便性を高めました。観光客がネットを快適に利用し、SNSなどに観光地の情報

Free Wi-Fiの使い方

①下のエリアサインの周辺でWi-Fiを起動



②使用するWi-Fiを選択後ネットに接続



③EメールアドレスやSNSアカウントを登録し完了



★右のアプリをダウンロードして使うと、どちらのWi-Fiにも接続可能



まちの魅力向上に

市では今後、駅周辺の利用状況などを検証し、他の公共施設への整備を検討する他、市内の企業や店舗にも参加を呼び掛けていきます。利便性向上だけでなく、まちの魅力向上にもつながる公衆無線LANの整備。より多くの場所で快適にネットが利用できる環境づくりを目指していきます。

問 情報政策課 ☎ 225-2450

用語解説

【無線LAN】機器の線をつなずにネットに接続できる環境
【Wi-Fi】無線LANの一つで、さまざまな機器をネットに接続できる
【SNS】ネット上で他者とながら、情報を交換・発信できるサービス
【アカウント】ネット上のサービスを受ける権利情報
【アプリ】アプリケーションの略称でスマートフォンなどの機器にダウンロードして使うプログラム

厚木市民情報提供システム **スマ報** スマートフォンでまちづくりに参加

「スマ報」は、道路の損傷や不法投棄などの、身近なまちの課題を市に情報提供する仕組みです。寄せられた情報を参考に、市が課題解決などに取り組みます。

☎ 情報政策課 ☎ 225-2459

【使い方】
①専用サイト(右QRコード)で登録
②情報提供する項目を選択
③位置情報付きの写真やコメントを添付して送信

【情報提供の種類】
①道路や公園遊具などの損傷
②不法投棄・落書き
③外来生物(オオキンケイギクなど)
④市の魅力(開花、紅葉など)

▼専用サイト



サービスのアイスクリームに笑顔を見せる親子

Zoom Up

AYUCOカードで買い物をお得に 特典で子育てを応援

子育てパスポートAYUCOは、買い物の時にカードを見せるとサービスを受けられる制度です。18歳未満の子どものいる世帯が、無料で登録できます。カードを作って、お得に買い物を楽しみませんか。

簡単な手続きでお得な特典

サービスを受ける方法は、店舗で買い物をする時にカードを見せるだけ。カードは、簡単な手続きで手に入ります(左欄参照)。受けられるサービスの種類は、商品の割引や子ども向けの特典のプレゼントなどさまざまです。二人の子どもを育てている山本郁さん(33・栄町)は「特典の割引などを使っている。こうしたサービスはとてありがたい」と喜びます。

カードは、3年ごとに更新。登録世帯には、更新するたびに新しいカードとガイドブックが郵送されるため、初めの手続きを済ませるだけで、子どもが18歳になるまで使うことができます。現在

登録している世帯には、9月下旬に発送します。

お店に足を運びきっかけ

制度の実施には、市内店舗の協力が欠かせません。提供するサービスは自由に設定でき、変更も可能です。サポーター店舗への登録は、随時申請を受け付けています(左欄参照)。

制度が始まった時からサポーター店舗に登録している飲食店を営む六ヶ村健三さん(70・栄町)は「カードを持って来店してくれるお客さまも多い。多くのお店が登録することで子育て世帯を応援でき、商店の活性化にもつながる」と話します。

まちのにぎわい創出

カードを利用し、市内の店舗で買物をする世帯が増えることは、まちの商業の活性化にもつながります。市では今後も、子育て世帯の制度加入やサポーター店舗への登録を呼び掛け、まちのにぎわい創出につなげていきます。

商業にぎわい課 ☎225-2834

カードを手に入れよう

カードは無料で登録できます。サポーター店舗でカードを見せて、お得に買い物を楽しみましょう。

【対象】 同居の18歳未満の子どもがいる世帯

商業にぎわい課や公民館などにある申請書(HPからダウンロード可)を、直接または郵送、ファクス、Eメールで〒243-8511商業にぎわい課 ☎223-7875・☐3800@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

※カードは後日郵送。窓口で同居の親子関係などが分かる書類(保険証・住民票など)があれば、その場で発行できます

【更新】 9月下旬に新しいカードとガイドブックを郵送



カードの登録は無料

サポーター店舗はステッカーが目印

市内約370店舗が、特典や割引で子育て世帯を応援しています。店舗やサービス内容は、HPやガイドブックで紹介しています。

◆サポーター店舗を募集

HPやガイドブックでお店の情報をPRできます。

【対象】 市内の店舗(審査あり)
商業にぎわい課にある申請書(HPからダウンロード可)と店舗の写真データを郵送またはEメールで商業にぎわい課へ。

【サービスの例】

- ・全商品5%割引
- ・一定額以上の買い物で記念品進呈
- ・ドリンク1杯サービス
- ・買い物ポイント2倍



店舗やサービス内容はガイドブックにも掲載

詳細はこちら▶ [AYUCO](#) [検索](#)

楽しく学べる 幼稚園に行こう

市内では、18の園が特色ある教育に取り組んでいます。全園で預かり保育を実施しているため、共働き世帯でも安心です。預け先に幼稚園を選んでみませんか。



広い園庭で元気に活動

【対象】 3歳～未就学児

【開園時間】 7時30分～19時(教育時間外は預かり保育)

【教育時間】 9～14時

※時間は園により異なります

【休業日】 土・日曜、夏・冬休みなど(預かり保育は可)

【保育料の目安】 世帯収入約600万円を想定した概算
※多子世帯は保育料の軽減や就園奨励費補助金の上乗せがあります

(例)小学1～3年生が1人いる世帯が3歳の子を7時30分～18時30分に預けた場合

★幼稚園 月額2万3000円(保育料2万5000円+預かり保育料1万6000円-補助金1万8000円)

★保育所 月額2万3000円

多子計算のカウント方法

3歳	第3子 無料	第3子 半額	第3子 無料
4歳			第3子 無料
5歳	第2子 半額	第2子	第2子
小1			第2子
小2			
小3	第1子		第1子
小4		第1子	

※2歳以下、小4以上はカウントしない

11月
受け付け
開始

2019年度の新入園児の受け付けが始まります。募集要項や願書は各園で配布します。見学の申し込みなど、詳細は希望の幼稚園にお問い合わせください。 **願書配布開始日** 10月15日

市内の幼稚園一覧▶ [厚木市 幼稚園](#) [検索](#)

☎子ども育成課 ☎225-2262

厚木の味覚をまるごと紹介

カキ農家 菅崎 希巳子さん(55・愛甲西)



もともとカキは好きではなかったのですが、両親が作った「太秋」という品種を初めて食べたとき、甘くておいしくて感動しました。その感動をたくさんの人に味わってもらいたくてカキを作っています。販売する時は、主婦の視線を大切にしています。その一つとして、お客さんが買い物しやすいように直売所では大きい袋と小さい袋を用意して販売しています。

クリ農家 岩崎 昭重さん(86・飯山)

市内で観光クリ園を妻と営んでいます。モットーはお客さんに喜んでもらうこと。8月下旬から10月上旬まで長期間楽しめるよう収穫時期が違う5品種を植えています。お客さんが拾ったクリを選別し良い物だけを渡すのもこだわりの一つです。お客さんと話すことが一番の楽しみ。今年もたくさんの方と会えるのを楽しみにしています。



飯山栗園 ☎241-1845

リンゴ農家 大貫 一義さん(84・戸田)



リンゴを、厚木で生産していることを知らない方も多いと思います。25年前、試験的にリンゴの木を植えたところ、良い実ができたため本格的に生産を始めました。今では、「つがる」や「陽光」、「シナノゴールド」など10品種を栽培しています。シャキシャキと歯触りが良く、完熟で甘味が強い厚木産のリンゴを全国に広めていきたいです。

あつぎのリンゴを味わってみませんか

【日時】9月14日、9時30分～
【場所】JAあつぎ農産物直売所「夢未市本店」
【内容】即売、試食(限定)など
☎農業政策課 ☎225-2801

ナシ ブドウのもぎ取り

市内ではナシとブドウのもぎ取りができます。家族や友人たちと味覚狩りを楽しみませんか。

【期間】9月上旬まで(要予約)
■鈴木果樹園(関口) ☎245-1355(ナシ・ブドウ)
■たかざわふあ〜む(愛甲) ☎250-1174(ナシ)
■玉川ぶどう園(小野) ☎248-0464(ブドウ)

※天候・収穫状況により、対応できない場合があります

直売所

市内で生産されたブドウ・ナシ・カキ・リンゴは各農家で直売している他、JAあつぎ農産物直売所でも販売しています。

■夢未市本店(温水255) ☎290-0141
■夢未市相川店(酒井1422-1) ☎228-1504
■グリーンセンター(及川1161-1) ☎241-6150

※生育状況により、売り切れの場合があります



ハサミで粒を落とし房全体の形を作っていく

●荒れていたブドウ畑を再生
それまで独学だった小塩さんは、市内の農家が集う市園芸協会に入会。他のブドウ農家と交流し、技術を学ぶようになった。中でも頼りにしたのは、同協会ぶどう委員長の柳下浩幸さん(57・長沼)でした。自分の畑を柳下さんに見てもらったところ、こう告げられました。「親から受け継いだ大切な木だけ、一度切ってやり直した



生産したブドウは直売所で販売

●初めての収穫に感動
小塩さんは、人気の高い「藤稟」や、近年注目されている「シャインマスカット」、味にほれ込んだ「ハニービーナス」の3品種の苗木を植えました。柳下さんからアドバイスを受け、効率的に生産できる「文字短梢剪定栽培」も取り入れられました。収穫できるのは苗木を植えてから3年後。本来は伸ばす新芽を切ってしまったり、摘粒がうまくできなかつたりと何度も壁に当たりました。「ちゃんと収穫できるかな」安堵した。その分、初めて採れたときは感動した

●責任を持って作りた

小塩さんがブドウ作りを始めたのは、高齢の義父母から、ブドウ畑を受け継いだことがきっかけでした。農業の経験がなかった小塩さんは手探り状態。畑は荒れていき、自分の知識不足を感じる日々を送っていました。そんな小塩さんを変えたのが、お客さんから言われた「同じブドウなのに他の農家の物に比べて色が薄いね」という一言でした。「成り行きではなく、責任を持ってものを作らなければいけない」。小塩さんは本格的にブドウの生産をすることを決意しました。

●初めての収穫に感動

小塩さんは、人気の高い「藤稟」や、近年注目されている「シャインマスカット」、味にほれ込んだ「ハニービーナス」の3品種の苗木を植えました。柳下さんからアドバイスを受け、効率的に生産できる「文字短梢剪定栽培」も取り入れられました。収穫できるのは苗木を植えてから3年後。本来は伸ばす新芽を切ってしまったり、摘粒がうまくできなかつたりと何度も壁に当たりました。「ちゃんと収穫できるかな」安堵した。その分、初めて採れたときは感動した

旬の味覚を召し上がれ

果物がおいしい季節がやってきました。一口食べれば、口いっぱいに広がる果汁とともに幸せを運んでくれる果物。今回は、市内でこだわりを持って果物を生産している農家の皆さんを紹介いたします。ぜひこの機会に味わってみませんか。
☎農業政策課 ☎225-2801



あつぎ 元気Wave
ケーブルTV 9/1~
厚木の果物を紹介

●厚木のナシ

県が安全性や品質を保証する「かながわブランド」に登録され、35人の生産者が年間約190トンを生産しています。

ナシ作りの1年	
11~3月	畑の土作り、剪定、誘引
4月	授粉(実ができるよう花に花粉を付ける作業)
5月	摘果(出来の良い実を大きくするために、小さい物を取り除く作業)
6月	袋掛け(害虫や病気から果実を守るために袋を掛ける作業)
7~9月	収穫



家族で味や食感を確認する

●親よりも良いナシを
庄司さんは、4人きょうだいの長男。後を継いでほしいという父の思いにこたえて就農しました。初めは、父親に言われるまま働き、技術を身に付けていきました。「せっかくなので始めたのだから、自分なりが芽生えよう」という思いが芽生えます。他の産地の知人に話を聞き、剪定や土作りなど

「一番のやりがいはお客さんの笑顔。毎年楽しみに待っていてくれる人たちがいるので、手を抜くことはできない」。庄司さんは、70坪の農地でナシを生産している。この道31年のベテランです。現在は、7月下旬から続く収穫作業の真っただ中。ナシにたっぷり愛情を注ぎながら、汗を流す日々を送っています。

ナシ農家 庄司隆行さん(51・愛甲)

妥協のないこだわりのナシ

小塩さんが最もこだわるのは甘さ。必ず糖度計で測り、納得できない物は販売しないと決めています。「ブドウをお客さんに渡すときは、子どもを嫁に出す気分」とほほ笑む小塩さん。「ブドウ作りは奥が深いので、日々勉強。これからはもっと品質を高めて、たくさんの人に味わってもらいたい」と瞳を輝かせます。



一つずつ大きさを色などを確かめ収穫していく

●手間をかけたナシ作り

「ナシは手間をかけた分だけ、必ずおいしくなる」。そう話す庄司さんが最も力を入れているのは、畑の土作りです。「栄養は土から得るので、味は土で決まる。地味な作業だけれどおろそかにできない」。こだわって選んだ有機肥料と堆肥を混ぜ、2年ほど寝かせてから畑に入れていきます。今では、機械での散布が主流となっています。中でも、一つ一つ手作業で行います。木の中で一番栄養が行き届く場所に実を付けるためのこだわりの作業です。食べる人の安全を考え、減農薬にも力を入れています。虫や鳥から果実を守る

●味の追求

「毎年収穫の時期を楽しみにしている」。一村淳子さん(84・愛甲西)は、長く庄司さんのナシを買い続けている一人です。「庄司さんのナシを食べてから、それ以外は食べられなくなりました。贈り物として全国の友達に送っているけれど「厚木にこんなおいしいナシがあったんだ」といつも驚かれます」と笑顔で話します。日々、味の良いナシを作るため、努力を惜しまない庄司さん。「今作っている物に満足しないので、もっとおいしいナシを皆さんに食べてもらいたい」。これからもおいしいナシの探求が続きます。

伝統の祭りに70万人が来場

「第72回あつぎ鮎まつり」大盛況



夜空を彩った美しい花火

祭りの目玉となる大花火大会では、約1万発の色鮮やかな大輪が夜空を飾り、来場者を魅了しました。

市最大のイベント「第72回あつぎ鮎まつり」が8月4・5日に開催され、約70万5千人が祭りを楽しんでいました。会場ではチアやフラなどのダンスを披露する「アッギダンスレジェンド」や人気歌手などのステージを展開。2日目は「小学生鮎つかみどり」「みこしショー」などバラエティに富んだ催しが開催されました。屋台では名物「アユの塩焼き」や地ビールなどが販売された他、市内のホテルでは友好都市の秋田県横手市、北海道網走市をはじめ、新たに友好の輪に加わった沖縄県糸満市の物産展が開催され、多くの人でにぎわいました。

広がる友好の輪

沖縄県糸満市と友好都市を締結

8月4日、厚木市は沖縄県糸満市と正式に友好都市となりました。共通の友好都市である北海道網走市との縁をきっかけに交流を進め、この日の締結に至りました。レンブラントホテル厚木で開かれた締結式で小林市長は「本日を迎えられることは、この上ない喜び。締結で、網走市を含めた三市の発展と繁栄、一層の友好へ新たに歩み出せれば」。上原糸満市長は「市民一体となって両市の発展に向け交流していきたい」とあいさつしました。今後は、小・中学生の訪問交流による平和学習やスポーツ交流に力を入れる他、文化・芸術、観光などで、糸満市との絆を深めていきます。



盟約書に署名した小林市長と上原糸満市長



優しさを召し上げ

パン製造事業者が「子ども食堂」を支援

市内公共施設などで月1回程度開かれている「子ども食堂」で、株式会社オギノパンによるパンの無償提供が始まりました。コッペパンなど約70個が提供され、訪れた子どもたちは、おいしそうに頬張っていました。提供は、食堂の運営を支援するため、市立小・中学校に給食用のパンを納めている同社が市に申し出て実現。子どもたちは「いい匂いがする」「おいしいね」などと話しながら食事を楽しんでいました。この日、食堂を開いたASHIL代表の葉山修次さんは「たくさんの方の協力があっておいしい食事を提供できている」と感謝の気持ちを話していました。今後は、市内で同様の取り組みをしている厚木Y.M.C.A、地域活動支援センターアジュール、下長谷子ども食堂でも提供されます。



具だくさんのパンに夢中

命を守る「共助」の力

古松台自治会に救命サポート隊発足

地域で傷病者の命を守る力を高めるため、「市民救命サポート隊」が、7月に古松台自治会に発足しました。市内での発足は3例目。隊は、地区内に傷病者が出た際、消防本部からの要請で出動し、応急手当や救急隊員の補助を担います。鈴木佐重喜消防長から委嘱状を受け取った隊長の山口長夫さん（68）は「出動体制はもろろのこ」と、傷病者を出さない心掛けも大切。日頃の見守り活動に力を入れたい」と、地域を守る決意を固くしました。隊員は今後、知識や技術を学ぶための訓練や研修、地域内のパトロールなどを実施して、まちの安心・安全を守っていきます。



地域を守る決意を固めた隊のメンバーたち

アツギ X ニューゼaland ホストタウン通信



体を動かしながら自然と笑顔がこぼれる

スポーツを通じた交流を

7月17～24日に、女子バスケットボールNZ代表チームが厚木市でキャンプを実施しました。トレーニングや県内の実業団チームとの交流試合に加え、市内の小学生と交流する教室を開催。10人の選手たちは、実演を交えながらパスやシュートの技術をレクチャーし、子どもたちと親交を深めました。

9月には、東京五輪の正式種目・セーリングの世界大会が江の島（藤沢市）で開催されます。セーリングNZ代表は、2016年のリオデジャネイロ五輪で金メダルを獲得。大会に合わせ、市内の小学生と選手たちが江の島で交流会を開催します。

今後も、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、多くのNZ代表チームが来日します。市では、NZとの交流を通じ、スポーツ振興や教育交流などを進めていきます。

2020年東京オリンピック・パラリンピック（東京五輪）に向けて、ホストタウン相手国となったニュージーランドとの交流事業などを紹介します。

7月に西日本を襲った豪雨は、200人以上の命を奪いました。九州北部豪雨、関東・東北豪雨の記憶も新しいうちに、平成最大の豪雨災害はやって来ました。6月には大阪で、最大震度6弱の地震が起きました。全国で7月までに起きた震度5弱を超える地震は8件。地震のたびに「明日はわが身」を実感します。近い将来、大地震の発生が懸念される中、市では被害想定

9月1日は防災の日。市が災害に備えることは当然ですが、皆さんも自らの身を守る準備をお願いします。



台風12号で設置した災害対策本部の様子

雨については近年、集中豪雨に脅威を感じる機会が増えています。市では市内全域の洪水ハザードマップを作成。間もなく、各家庭へ配布します。さらに雨水・下水施設の構造から浸水の目立つ市街地では、雨水貯留施設を整備。氾濫の恐れのある河川は、管理者に河床整理などを働きかけています。

タウンガイド

9月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

10月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

☑=申し込み ☎=問い合わせ
☎=電話番号 ☒=ファクス番号
✉=Eメール 🌐=市ホームページ
📍マイタウンクラブ
📍印の番号で、ウェブ上から詳しい情報を確認できます。「📍」と記されたものは、申し込みもできます。

アミューあつぎに「夢未市」が特別出店

9月15日、10～14時。アミューあつぎ。JAあつぎ農産物直売所「夢未市」が出店し、新鮮な地場産野菜や厚木産の米「キヌヒカリ」などを販売。📍商業にぎわい課☎225-2834。

ミニCHiKaフェス

9月8・9日、10～17時。本厚木駅東口地下道。小学生向けのロボットバトルーナメント(500円)、虫に触れる体験、厚木漢字検定など。📍当日直接会場へ。ロボットバトルーナメントはロボットゆうえんち☎080-4081-6371へ。先着順。📍企画政策課☎225-2450。

Aloha E komo Mai ぼうさいの丘公園! 2018

9月15日(雨天時は16日)、10～15時。ぼうさいの丘公園。フラダンスやフリーマーケットなど。📍当日直接会場へ。📍環境みどり公社☎225-2774。



あそぼう!まなぼう! まめの木タイム

9月①10日②19日、11～12時。①下古沢児童館②緑ヶ丘児童館。親子遊びで子どもの発達や関わり方を学ぶ。市内在住の乳幼児と保護者20組。無料。📍当日直接会場へ(駐車場はありません)。📍療育相談センター☎225-2252。

DV気づき講座 ～自分を大切にすること～

10月11日、14～16時。あつぎ市民交流プラザ。夫婦や恋人の間での暴力を専門家が解説。女性30人。無料。託児あり(1歳～小学3年生。9月26日までに要予約)。📍10月9日までに県ホームページまたは電話で

県立かながわ男女共同参画センター相談課☎0466-27-2111へ。抽選。

あつぎバーベキューテラス

10月6～8日、①10～13時②14～17時。厚木青少年広場。バーベキュー機材のレンタル。詳しくは☎へ。8000円(最大10人)。📍9月1日～利用日の3日前に、デジキュー☎0570-09-0014またはデジキューホームページへ。先着順。📍河川ふれあい課☎225-2381。



保育のしごと就職支援セミナー & 就職相談会 in 厚木

9月29日、10時30分～14時。あつぎ市民交流プラザ。就職のポイントを学ぶセミナーと市内保育園などによる就職相談会。保育士の仕事を希望する方。託児あり(1歳～小学3年生5人。保育課☎225-2768で要予約)。📍当日直接会場へ。セミナーは電話またはEメールに氏名、電話番号、住んでいる市町村を書き、9月14日までにかながわ保育士・保育所支援センター☎045-320-0505・☒hoiku_jinzai@knsy.jpへ。

市立病院の職員を募集

《職種》①言語聴覚士、診療放射線技師、臨床検査技師A②臨床検査技師B《試験日》10月7日《対象》①1989年4月2日以降生まれで資格を持つまたは2019年実施の国家試験で資格を取得見込みの方若干名②1978年4月2日以降生まれで資格を持ち職務経験5年以上または業務の認定資格がある方若干名。詳細は受験案内を確認してください。📍市立病院や市役所本庁舎、本厚木・愛甲石田駅連絡所にある申込書(市立病院ホームページからダウンロード可)を直接または郵送で9月26日(消印有効)

9月10日～16日 心の声に耳を傾けて 自殺予防週間

自殺は、誰もが直面し得る身近な問題です。一人で抱え込まず、まずは相談してみませんか。

■いのちのサポート相談(予約制)

臨床心理士による心の健康相談を月2回実施しています。詳しくは健康づくり課へ。

📍健康づくり課☎225-2201



相談窓口を紹介する冊子を公民館や保健福祉センターなどで配布

までに☎243-8588 水引1-16-36病院総務課☎221-1570へ。

高齢者福祉施設などの事業者を募集

高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第7期)に基づく、特別養護老人ホームなどの設置運営を希望する事業者を募集します。

《対象》①特別養護老人ホーム②特定施設入居者生活介護③認知症対応型共同生活介護。📍申請書(☎からダウンロード可)を10月1～31日に介護福祉課☎225-2234へ。

里地里山保全等促進委員会の委員を募集

「里地里山保全等促進条例」の運用に関する助言や運用状況を点検する委員を募集します。

《対象》①市内在住で18歳以上②平日昼間の会議(年2回程度)に出席できる③他の付属機関などの委員でない④市の議員・職員でない⑤の全てを満たす方2人《任期》11月～(2年間)《報酬》日額7800円(交通費含む)。📍環境政策課にある申込書(☎からダウンロード可)を郵送、ファクス、Eメールで10月1日(消印有効)までに☎243-8511環境政策課☎225-2746・☒223-1668・☒3100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

9月9日は「救急の日」

緊急性のない軽いけがや病気で、救急車を利用する人が増えています。一刻を争う命を救うため、救急車の適正な利用をお願いします。📍救急救命課☎223-9365。

9月10日は「屋外広告の日」

屋外に設置されている広告物には、位置や大きさなどのルールがあります。設置するには条例に基づく許可が必要です。📍都市計画課☎225-2401。

「あつぎの街!を考えるワークショップ」参加者募集

9月12日、13時30分～16時。あ

つぎ市民交流プラザ。東京工芸大学の学生による「あつぎの街のこれから」をテーマにしたプレゼンテーション、学生と来場者の意見交換会。📍当日直接会場へ。📍商業にぎわい課☎225-2840。

東京都市圏パーソナルトリップ調査に協力を

県は9～12月に、交通手段の利用状況を把握するための調査を実施します。対象の家庭には調査票を送りますので、協力をお願いします。📍県土整備局都市部交通企画課☎045-210-6181。

2019年分公的年金の扶養控除申告書を送付

高齢や退職を支給事由とする年金を受けている方のうち、年金額が65歳未満で108万円、65歳以上で158万円以上ある方に、扶養控除申告書を送ります。年金から控除する所得税額に影響しますので、扶養親族がいない方も必ず返送してください。📍日本年金機構ねんきんダイヤル☎0570-05-1165・日本年金機構厚木年金事務所☎223-7171。

みんなの声でつくるまち

《パブリックコメント》

■市都市公園条例の一部改正の骨子《閲覧期間》9月1日～10月2日《閲覧場所》公園緑地課、荻野運動公園、ぼうさいの丘公園、市政情報コーナー、公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ、保健福祉センター、☎。📍公園緑地課☎225-2412。

■固定資産税の特例措置(わがまち特例)に関する市税条例の一部改正《閲覧期間》9月4日～10月4日《閲覧場所》資産税課、市政情報コーナー、公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ、保健福祉センター、☎。📍資産税課☎225-2032。

いずれも応募方法は、閲覧場所にある用紙で確認。

ホット インターネットモニターからの意見を紹介

いいメール Hot E-Mail

インターネットモニター募集中
厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報課☎225-2043

8月1日号「広報あつぎ」を読んで
◆美しく躍動感あふれる写真で糸満市に行きたくなった/40代女性◆子どもも大人も地域の絆を深めることが大切だと感じた/40代女性◆戦争の体験を語り継ぐ重要性を強く感じた/70代男性◆子どもが産まれて命の尊さを痛感。大きくなったら戦争について伝えたい/30代女性◆恒例の花火大会が楽しみになった/40代男性◆ジャズは普段聞くことがないのでこの機会に聞いてみたい/50代女性

編集後記 今年の夏は記録的な猛暑。台風上陸による豪雨にも見舞われ、素人目から見ても果物の生産に好ましくない天候が続いているように思いました。庄司さんに尋ねると「『農業は天候に左右される』と言われるけど、影響されないよう対策したり、されても修正したりするのが腕の見せ所」と笑顔。ナシを食べてみて納得しました。何があっても言い訳せず仕事に取り組む姿勢にプロ意識を感じ、職業は違えど自分も見習いたいと思いました/佐藤邦

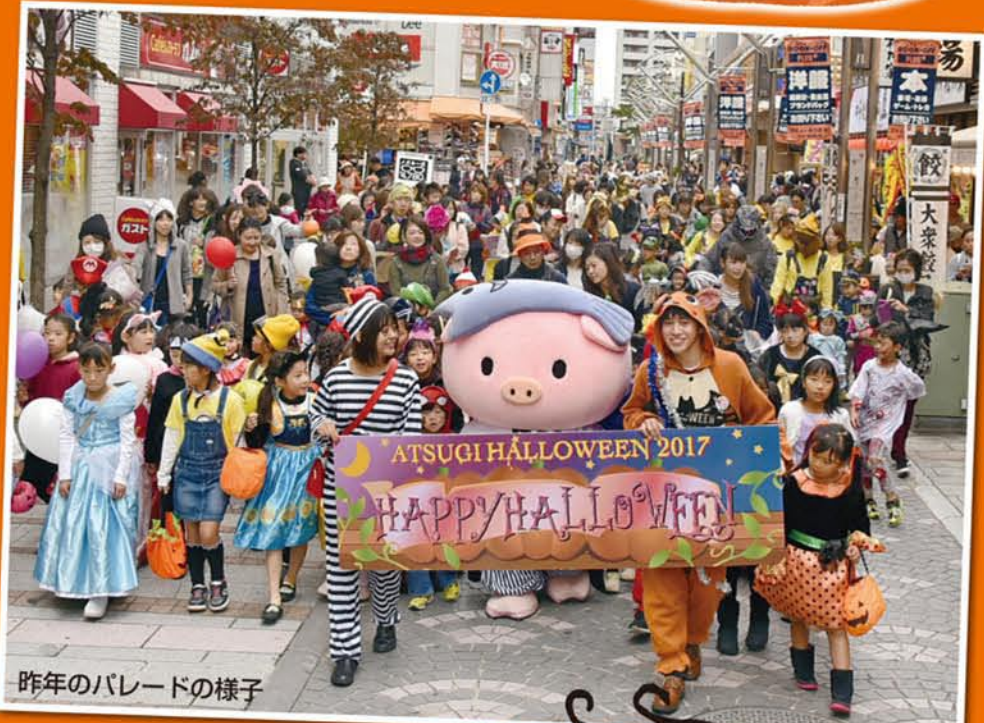
トリック・オア・トリート! 仮装して街を歩こう あつぎハロウィーン 2018

街をハロウィーン一色に染める大人気の催しが、今年は小田急電鉄株式会社とコラボレーションしてパワーアップします! 思い思いのコスチュームに身を包み、厚木のハロウィーンを楽しみませんか。



- ① **仮装パレード**
仮装して、厚木一番街を歩きましょう。
- ② **仮装コンテスト NEW**
自慢の仮装をパシャリ! 写真審査でグランプリを決定します (15組。1組5~15人)。
- ③ **クイズラリー NEW** 300円
指令書に従い謎を解くとすてきなプレゼントがもらえます。楽しい写真が撮れるフォトスポットも登場! (中学生以下400人)

往復ハガキに代表者の〒住所、氏名、電話番号、参加人数 (保護者含む)、①~③の参加イベント名、仮装コンテストは団体名を書き、9月25日 (必着) までに〒243-8511 商業にぎわい課へ。先着順。



昨年のパレードの様子

ステージイベント&飲食ブース NEW

10月27日には厚木中央公園の特設ステージで仮面ライダージオウなどが出演。市内のおいしいものを集めたOECフードなどのグルメも楽しめます。

ハロウィーングルメウィーク NEW

10月20~27日は、協力店で特別サービスが受けられるスペシャルウィークを開催。市役所や本厚木駅で10月中旬から配布する小田急グループ発行の情報冊子「アツギラヴァーズ」にお得なクーポンが付いています。

※雨天の場合は内容が変更になる場合があります。

参加型の催しを楽しんで



あつぎにぎわいアドベンチャー隊
田中 祥人さん
(松蔭大学3年)

にぎわいアドベンチャー隊は、市内の大学生が、若者ならではの発想で活気あるまちづくりを提案するグループです。7回目となるこのイベントも、私たちが企画・運営しています。今回は歩く人数が増えるので、より大規模で楽しいパレードになります。ぜひ遊びに来てください。

商業にぎわい課 ☎225-2840 詳しくは、[あつぎハロウィーン](#) 検索

連載 25周年 **自然歳時記**

● **ミヤマアカネ** ●
トンボ科

全長30~41mmほどの大きさ。透明な羽の先端近くに褐色の帯がある。湿地や河川、水田などで見掛けるが準絶滅危惧種で減少傾向にある/猿ヶ島、用水路脇で見つけた。
写真・文/吉田文雄



今年は、今までにない猛暑が続いた。暑さに負けない植物の生命力のおかげで、虫も元気に過ごせている。用水路を覆うように植物が生い茂り、そこから吹き渡る風は水の冷たさをまとって心地よい。メヒシバの穂先に雌のミヤマアカネが止まり、小さな虫を食べていた。トンボは稲に付く虫を食べる益虫だが、湿地や水田の減少や乾燥化とともに住みにくい環境になってきている。今度は雄が虫をくわえて飛んできた。すると、心が通じ合ったかのように席を譲った。羽の先端の紋まで赤く染まった雄と、白い紋の雌。楽しい会話が聞こえてきそうな気がした。

厚木市の人口 (8月1日現在) 世帯数 9万9269世帯 (前月比128世帯増) 人口 22万5361人 (前月比47人増) 男11万6545人・女10万8816人